

# 清流 ニュース

発行所  
八王子市子安町 1-22-25  
清流寺  
清流ニュース編集室  
電話(042)646-0287(代)  
FAX(042)644-1164  
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 総 祈 願  
佛立開導日 扇聖人二生誕二百年 慶 讚  
佛立開花運動第一年度 御奉公 成就  
本年度 自主教化 誓願 達成 之 御 願  
日序上人御十七回忌 報恩 御奉公 成就  
役中 後継者 養成 法灯 相 続 促 進

## 六月の御総講日

一日	十時	御修行日
七日	十時	バスデー総講 日序上人報恩祈念 (二万遍口唱念)
十三日	十時	高祖御命日
十七日	十時	開導御命日
廿五日	十時	門祖御命日
十二日	十時	於 清流寺 高祖御速夜 (二万遍口唱念)
十六日	十時	開導御速夜
廿二日	十時	門祖御速夜
三十日	十時	於 羽村別院 欲尊御命日

### 特別行事

廿四日 十時三十分  
当山初代住職  
権大僧正日序上人御十七回忌法要  
晴天祈願  
十七日、廿三日 特別参詣  
朝参詣を三十分延長  
会議  
一日 御総講後 役中会議  
参事会  
廿五日 御総講後 教区長会議

6月24日(火)  
10時30分

## 当山初代住職 権大僧正日序上人御十七回忌法要 奉修御導師第廿四世講有 清雄寺 御高職 御講尊 小山日誠上人ご親修

来る廿四日は、当山先住権大僧正日序上人御十七回忌ご正当です。  
この度、ご法要をお勤めくださる小山御講尊は、先住とは長らくのご昵懇であられました。そのようなご因縁から先住のご葬儀には葬儀委員長をお引き受け下さり、その後当山には度々ご来駕の上、ご指導を賜っております。  
さて、当山先住日序上人は戦後間もなく、昭和廿二年の秋、お師匠・田中日晨上人の命を受け、焼野ヶ原の八王子本町に赴任、信者数も数軒と

いう親会場(当寺は、八王子親会場と称していた)でした。明くる、廿三年には寺号公称をして「大正山・清流寺」と届け出て、弘通の法戦が開始されたのです。  
昭和廿六年八月に、現在地である子安町に仮本堂を建立し、時あたかも高祖日蓮大士立教開宗七百年記念の教化運動の真只中、当山清流寺もこの教化運動に突入。先住の陣頭指揮により、終日口唱が度々行われ、昭和廿七年には第五支庁で第一位の教化成果を挙げる等めざましい発展ぶりでした。

その頃境内地にあつた池を埋め立て、いわゆる大本堂建立の機運が高まり、小紙一月号でご紹介した、あの大本堂の建立を成し遂げられ、昭和三十四年十一月に、全国から六千名を超える参詣団で、二日間に亘る本堂落慶開筵式が挙行されました。  
この大事業完遂の為に、朝参詣を毎日朝五時から十時迄五時間続行し、近隣からは早朝からウルサイ等の怨嫉が出る程の勢いであり、寺院等級も一挙に三級寺院へ昇格。  
昭和四十年代には、毎月、一日の御総講日は七百名を超える参詣者で、さしもの本堂が狭くなり、「新清流寺大本堂建設委員会」が設立され、昭和五十一年より建営御有志勸募運動が開始。  
五十四年十月廿五日の早朝旧本堂より新本堂へご遷座。

同年十一月三日(祭)に、大本寺・乗泉寺御高職田中日晨上人をお迎えして開堂式を挙行し、五十八年十一月五、六日の二日間に亘り第一回の開筵式を厳修、翌五十九年四月には第二回目の開筵式を厳修いたしました。  
このようにして先住日序上人は、三回も本堂を建立されたのであります。

### 日序上人

報恩ご奉公達成祈願  
一万遍口唱会と  
特別朝参詣実施

毎月、七日は日序上人報恩ご奉公達成祈願の一万遍口唱会が、朝六時より、バスデー総講終了時まで実施されています。  
また、来る廿四日の御十七回忌法要に際し、当日晴天無事奉修ご奉公成就を祈念して来る十七日より、廿三日までの一週間を、特別朝参詣として午前六時より八時迄、通常の朝参詣を三十分延長して特別朝参詣として実施いたしますから、この機会に一人でも多

く参詣して先住のご年回法要が無事に奉修されますよう、熱祈を捧げましょう。  
廿二日(日)  
東京中央布教区  
弘通促進大会開催  
於 遠妙寺

### 朝参詣強調週間

六月二日(月) 元八王子教区  
三日(火) 八王子東教区  
四日(水) 八王子西教区  
五日(木) 八王子南教区  
六日(金) 八王子北教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公御有志奉納者氏名(その五十六)  
(教区順。敬称略。順不同)  
二十六年五月十九日現在  
合計七六二名、一、五一一口



## 本月の御妙判 罪障消滅

白粉の力は漆を白くして雪の如く白くす。須弥山に近づく衆色は皆金色なり。法華経の名号を持つ人は一生、乃至過去遠劫の黒業の漆を白くして白業の大善となる。いはんや無始の善根皆変じて金色となり候なり。(妙法尼御前御返事175)

教えのまゝ行うことが白業で、教えに背いた行いは、黒業と申し、仏教では正邪善悪を黒白であらわしています。心に煩惱が充満してれば日々の行いというものは、たゞ黒業を積んでいるという事になります。仏の教えを

守つて、その心が清浄になつている人は日々白業を積んでいるというわけです。また須弥山という山からは絶えず金色を発しているのだから、山に近づくものは皆金色になるのであります。  
法華経の信とは  
「南無経ト唱ヘ奉ルヲバ信ト云フナリ」  
とお示しの如く、行住坐臥に口唱信行に励んでいるので、その心は全く清浄になつていて、仏の御意に叶うもの

であり、又その信仰が世間に對して大いなる益を与えるわけですから、一切の罪の消滅になるのであります。ですから、先づ最初に「無始已來諸法罪障消滅」と言上するのであります。  
世間では、悪ければ謝ればよいというような事を申しますが、人間の行為はたゞ謝れば許されるというものでなく、それ以上の大きな善業をつむと、過去の悪業が現在の大きな善業を積むことによつて解

決されるので、これを仏教では懺悔といふのであります。大きな功德をつむ事によつて懺悔が成就し、そこに罪障消滅となるのであります。  
「前心悪ヲ作ルコト雲ノ日ヲ覆フガ如ク、後心善ヲ起スコト炬火ノ闇ヲ消スガ如シ」  
(未曾有経)  
と、この意を表しています。  
罪滅の法は口唱の外になし  
怠るときはおのがあやまりと、示された御教歌の如く、お題目口唱という行の中にお

のずから罪滅もあり、御利益等もすべて口唱から生まれてくるという事を知らねばなりません。  
「今我唱へ奉れる御題目は我声にあらず。即ち仏の御声なればと思ひ唱ふること、わが過去よりの罪障消滅する音声なりと悦ぶべし」  
(安樂教導抄)  
と、御指南下されてあります。日常、口唱を怠らず、罪滅させて頂けるようにと祈る御信心が肝心であります。